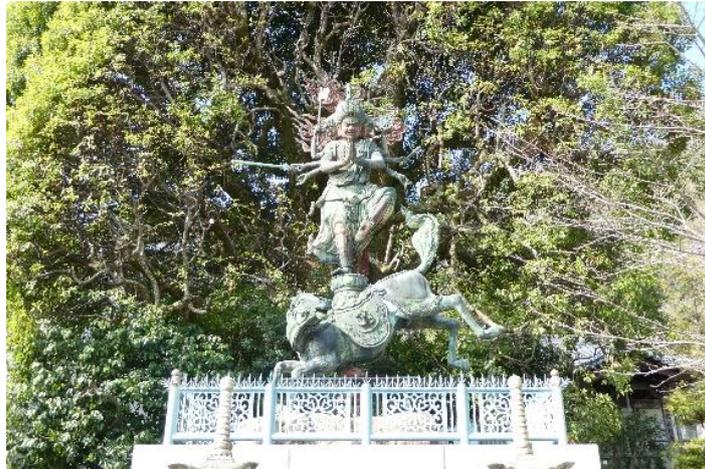


## 妙光院の馬頭観音（ばとうかんのん） 神仙寺通1丁目



通称青谷の高台に位置する妙光院は天台宗の寺院で、動物愛護の寺として知られている。境内にある馬頭観音菩薩像は高さ6㍎あり、日本最大の馬頭観音であると言われている。普通、観音菩薩像はやさしい顔をしているが、馬頭観音だけは例外で、仏法をそしる者や現世で悪事を行なう者を正しい道に教化するために憤怒の顔をした観音になったという。妙光院の馬頭観音は、1930（昭和5）年に当時の住職が重い荷をひいて坂道で困っている馬を見て、まつることを発願し、1933（昭和8）年に建立したものである。動物守護の本尊で、火災を背負い走る馬の背に足を上げる姿は動物に災難が及ぶ時に救いに行く姿をうつしたものだ。

観音像の背後にある愛馬供養塔にはかつて競馬ファンの血を燃えさせた名馬テンポイントをはじめとし、キシウローレル、ハマノパレードなど多くの馬のタテガミが奉納されている。それらの命日には関東・中国などからもお参りに訪れ、りんごや千羽鶴を供えていくという。毎年1月18日に初馬頭観音祭が行なわれ、愛馬やペットの健康を祈る参拝客で賑わう。

場所：神戸市中央区神仙寺通1丁目2-10

●「神仙寺通（しんせんじどおり）」の由来

かつてこの地に滝勝寺の末寺の神仙寺があり、寺が廃寺になったあとも地名として残ったと言われる。